教育課程表（実務経験のある教員等による授業担当状況）

医療専門課程　理学療法学科　夜間コース　令和5年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	授業単位数	授業方法			実務経験教員担当科目		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実習・実技	該当の有無	単位数（再掲）	科目担当専任教員
○			心理学	①対人援助職に必要な人間の行動科学の基本原則を学び、対象者理解の基礎を身につける。 ②リハビリテーション治療過程に関わる学習理論、動機づけを理解する。	1年夜前期	30	2	○					
○			統計学	基礎的な統計処理を学習し、理学療法及び作業療法に必要な臨床研究の基礎を身につける。	3年夜後期	30	2	○					
○			情報処理	コンピューターの基本的操作を学び、文章作成及び表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを用いた実習を通じ、研究・レポート作成に必要なデータ処理、統計分析の手法を学習しリハビリテーション研究の基礎を身につける。	3年夜後期	30	2	○					
○			物理学	①人体の運動と物理法則の関係を理解し、科学的な見方を身につける。 ②リハビリテーション臨床場面における科学的思考の基礎を身につける。	1年夜前期	30	2	○					
○			基礎教養	・文章を書く上で基本となる語彙と文法を理解する。 ・文章の基本となる文章構成について理解し、説得力のある論理的な文章表現力を身につける。 ・文章表現だけではなく、日常会話でも必要となる敬語表現を身につける。	1年夜後期	30	2	○					
○			対人関係演習Ⅰ	①医療専門職に対する社会的要請を学び、医療人としての守るべき倫理を理解する。 ②自己と他者、様々な人間関係の在り方を学ぶ。 ③人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を経験し、自己課題を認識する。	1年夜前期	30	2		○				
○			対人関係演習Ⅱ	実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。フィールドワークを通じてコミュニケーションスキルの実践を行い、自己課題を認識する。 対象者を尊重し,共感的態度をもって,より良い・善い人間関係を構築できる。	1年夜後期	30	2		○	△			
○			解剖学Ⅰ	正常な人体の動物機能に関わる骨・筋および末梢神経系の形態と構造を理解する。	1年夜前期	30	2	○					
○			解剖学Ⅱ	①正常な人体の動物的機能特に神経系の形態・構造を理解する。 ②正常な人体における植物系機能（循環・呼吸・代謝・成長など）ならびに意識的感覚や精神機能に関わる形態・構造を理解する。	1年夜後期	30	2	○					
○			生理学Ⅰ	生理学の基礎である細胞生理について理解したうえで、ヒトの生理学的（植物）機能を理解する。	1年夜前期	30	2	○					
○			生理学Ⅱ	人の動物性機能を理解する。	1年夜後期	30	2	○					
○			運動学Ⅰ	身体の構造（骨・関節・靭帯・筋・神経）と身体の姿勢保持・運動との関係を理解する。 上肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。 脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いを理解する。	1年夜前期	60	4	○			○	4	仲村　匡平
○			運動学Ⅱ	靭帯の走行と運動制限を理解する 関節運動(転がり・滑り),終末強制回旋運動について理解する 膝関節の動筋について理解する	1年夜後期	30	2	○			○	2	仲村　匡平
○			運動学演習Ⅰ	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。また、神経の走行・筋の支配神経について理解する。	1年夜前期	30	2		○		○	2	齋藤　雄一

○			運動学演習Ⅱ	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。また、神経の走行・筋の支配神経について理解する。	1年夜後期	30	2		○		○	2	齋藤　雄一
○			人間発達学	①身体、運動、認知、心理、社会性など各領域の正常な発達過程を理解する。 ②人間を生物学的存在としてでなく社会的存在としてとらえ、各段階の発達課題を理解する。 ③人間発達学を通じて幅広く豊かな人間観を身につけ	2年夜後期	30	2	○					
○			リハビリテーション基礎医学Ⅰ	理学療法士・作業療法士にとって、運動・活動は治療に必要不可欠である。本講義では、ヒトが運動・活動するために必要な栄養学を含めた諸要素の基礎、それらへの加齢・不活動の影響及び生活習慣病について学習し、運動の必要性を理解しつつ、実践するために必要な評価・リスク管理及び緊急時の対処方法について	1年夜前期	30	2	○			○	2	吉田 修一
○			リハビリテーション基礎医学Ⅱ	画像及び薬物に関する知識は、理学療法士・作業療法士として患者の病態を把握し、治療プログラムを作成する上で重要な基礎となる。また、医師など他の医療スタッフと共通の認識を持ち、コミュニケーションを図る上でも必要な知識である。そのため、画像及び薬物についての基礎を理解することを目標とする。	1年夜後期	30	2	○			○	2	吉田 修一
○			医学概論	医療倫理、健康と病気の概念、疾病の分類を学び、病気の診断と治療の概要を理解する。	1年夜後期	30	2	○			○	2	新垣　工
○			病理学概論	①疾患の原因および形態的変化などの基本概念や用語、基本的視点と関連技術に関する知識を捉える ②医療・医学における病理学の役割、意味、位置づけを理解する	2年夜後期	30	2	○					
○			整形外科学	リハビリテーション対象疾患について疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。	2年夜前期	30	2	○			○		宮野　慎太郎
○			内科学	内科疾患について疫学及び予後、病因と症状（疾病の成り立ち）、検査および代表的な治療を理解する。	2年夜前期	30	2	○			○		吉田　修一
○			神経内科学	各疾患の疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。	2年夜前期	30	2	○			○		藤枝　寿光
○			臨床心理学	人間行動の基礎理論を学び、正常及び異常心理の評価と行動療法等の心理療法を理解する。	2年夜後期	30	2	○					
○			精神医学	①統合失調症の発生機序、病態、病型を理解する。 ②症状・障害を理解する。 ③治療の方針、経過、予後、生活への影響について学ぶ。	2年夜後期	30	2	○					
○			リハビリテーションと理学療法Ⅰ	理学療法士という専門職の役割を認識し、「あらゆる人々が健康で自立した生活の実現に貢献する」ことを使命とするプロフェッショナリズムとしての行動素地を身に付けることが出来る。その上で自らの目標・課題が明確となり今後の指標とすることが出来る。	1年夜前期	30	2	○			○	2	新垣　工
○			リハビリテーションと理学療法Ⅱ	私たちが働く領域は制度に基づく。その社会保障制度を理解したうえで、チームにおけるリハビリテーション職種の役割を認識する。また、対象者理解に必要な視点を身に付ける。	1年夜前期	30	2	○			○	2	井上　祥教
○			基礎理学療法学Ⅰ	理学療法の基礎を築くために基本動作と生体反応を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。 あわせて、提出期限の厳守、積極性、協調性等の職業適性を身につける。	1年夜前期	30	1	○		△	○	1	岡住　信介
○			基礎理学療法学Ⅱ	理学療法の基礎を築くために予防医学と現代医療を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。 あわせて、提出期限の厳守、積極性、協調性等の職業適性を身につける。	2年夜後期	30	1	○		△	○	1	新垣　工
○			生活機能演習	①ICFにおける「生活機能」を理解する。 ②ICF視点で模擬症例を通して生活機能障害の構造を理解する。 ③模擬症例を通して生活機能障害に対する課題解決能力を身につける。 ④模擬症例を通して生活期（在宅）の生活機能障害と、社会資源の利用を含めた多職種連携を理解する。	3年夜後期	30	1		○	△	○	1	古井 雅也

○			臨床運動学演習Ⅰ	①ICFにおける「生活機能」を理解する。 ②ICF視点で模擬症例を通して生活機能障害の構造を理解する。 ③模擬症例を通して生活機能障害に対する課題解決能力を身につける。 ④模擬症例を通して生活期（在宅）の生活機能障害と、社会資源の利用を含めた多職種連携を理解する。	2年夜後期	30	2		○		○	2	宮野　慎太郎
○			臨床運動学演習Ⅱ	異常な活動・動作を分析し、問題点の理解を客観的に出来るようになることを目標とする。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。	3年夜後期	30	2		○		○	2	東　健太郎
○			理学療法管理学	理学療法の職場管理学において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。	4年夜前期	30	2	○			○	2	新垣　工
○			基礎評価学演習Ⅰ	理学療法を実施するための評価、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム作成などの一連の思考過程を学ぶ。特に基本となる医療面接、バイタルサイン、関節可動域測定などに関して理解し実施および記録できることを目標とする。	1年夜後期	60	2		○	△	○	2	吉田　修一
○			基礎評価学演習Ⅱ	評価学演習Ⅰにて学習した内容を踏まえ、理学療法において必要な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。	2年夜前期	60	2		○	△	○	2	加藤　智彦
○			基礎評価学演習Ⅲ	基礎評価学演習Ⅰ、基礎評価学演習Ⅱにて学習した内容を踏まえ、理学療法が対象となる各疾患に特異的な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。	2年夜後期	60	2		○	△	○	2	加藤　智彦
○			臨床評価学演習Ⅰ	①　対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ②　対象者の状況に合わせた検査の方法を考えたうえで、練習に取り組むことができる ③　検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える	1年夜後期	30	1		○	△	○	1	安山 一郎 本宮 丈嗣
○			臨床評価学演習Ⅱ	①　対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ②　対象者の状況に合わせた検査の方法を考えたうえで、練習に取り組むことができる ③　検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える	2年夜前期	30	1		○	△	○	1	松本 芳和 安山 一郎
○			運動療法学演習	運動療法における運動療法学の歴史および位置づけを認識し、基本的運動療法について、方法、適応、禁忌およびリスク管理を理解し、安全で効果的に実施できることを目標とする。	2年夜後期	60	2		○		○	2	岡住　信介
○			物理療法学	種々の物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌および実施の手順について理解する。 症状に応じた物理療法を選択できる。	2年夜前期	30	1	○			○	1	鈴木　智裕
○			日常生活活動学演習Ⅰ	日常生活の基本として遂行される動作を取り上げ、それらの動作遂行に必要な条件を解説するとともに、ADL障害に対して動作の支援、援助方法を理解し実践する。 self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。 障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの	2年夜前期	30	1		○	△	○	1	東　健太郎
○			日常生活活動学演習Ⅱ	障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。 self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。 ADL評価の意義および検査方法を理解する	2年夜後期	30	1		○	△	○	1	東　健太郎
○			義肢学	義肢学では、切断患者のリハビリテーションの流れを理解するために、切断の原因、義肢の種類、義肢の適合および判定、そして装着訓練・管理方法を学ぶ。	3年夜前期	30	1	○			○	1	吉廣　伸隆
○			装具学	装具学では、装具の種類、適応、そして適合を学び、更に対象者の運動能力や機能を理解した上で、必要な装具を選択できることを目標とする。	3年夜後期	30	1	○			○	1	吉廣　伸隆
○			中枢神経疾患の理学療法学Ⅰ	脳血管障害の発生機序と障害像を把握した上で、片麻痺に対する理学療法を理解する。	2年夜後期	60	2	○		△	○	2	藤枝　寿光
○			中枢神経疾患の理学療法学Ⅱ	中枢神経系障害の理学療法学Ⅰの学習内容を踏まえ、高次脳機能障害そして、頭部外傷、神経難病の理学療法を理解する。	3年夜前期	60	2	○		△	○	2	藤枝　寿光

○			運動器疾患の理学療法学Ⅰ	運動器障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。	3年夜前期	60	2	○		△	○	2	宮野　慎太郎
○			運動器疾患の理学療法学Ⅱ	骨関節障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。	3年夜後期	60	2	○		△	○	2	宮野　慎太郎
○			内部障害系疾患の理学療法学Ⅰ	代謝疾患および循環器疾患の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。	3年夜前期	60	2	○		△	○	2	川人　裕也
○			内部障害系疾患の理学療法学Ⅱ	呼吸器疾患および悪性腫瘍の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。	3年夜後期	60	2	○		△	○	2	川人　裕也
○			小児疾患の理学療法学	小児期に発症する疾患について、疾患の知識及び派生する障害像を理解するとともに、それに対するリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する	2年夜後期	30	1	○		△	○	1	百代　貴子
○			理学療法学技術演習Ⅰ	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、骨関節疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。	3年夜前期	60	2		○	△	○	2	古井 雅也 本宮 丈嗣
○			理学療法学技術演習Ⅱ	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、中枢神経疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。	3年夜後期	60	2		○	△	○	2	藤枝 寿光 百代 貴子
○			理学療法学総合学習Ⅰ	①臨床実習の経験を元に、評価学分野、中枢系分野、運動器系分野における専門基礎科目・専門科目の知識と思考過程の統合を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。	4年夜後期	60	2	○			○	2	本宮 丈嗣
○			理学療法学総合学習Ⅱ	①臨床実習の経験を元に、内部系分野、小児・発達系分野、心理・精神系分野における専門基礎科目・専門科目の知識と思考過程の統合を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。	4年夜後期	60	2	○			○	2	本宮 丈嗣
○			理学療法学総合学習Ⅲ	①臨床実習の経験を元に、国家試験出題範囲全ての専門基礎科目・専門科目の知識の統合と思考過程の整理を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。	4年夜後期	60	2	○			○	2	本宮 丈嗣
○			生活環境学	障害や各福祉用具の特徴を理解した上で、生活環境の評価と住環境整備の流れを理解する。	3年夜前期	30	2	○			○	2	井上 祥教
○			地域理学療法学演習	１．地域リハビリテーションにおける社会制度を説明できる。 ２．地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる。 ３．地域リハビリテーションに関わる他職種のサービスについてその概略を説明できる。	3年夜前期	30	2	△	○	△	○	2	齋藤　雄一
○			臨床実習Ⅰ	①チーム医療における理学療法士・作業療法士の役割を理解する。 ②代表的な疾患の症状や現象を観察する。 ③代表的な疾患に対する評価や治療を観察する。	1年夜後期	45	1			○	○	1	理学療法学科教員 臨床教育指導者
○			臨床実習Ⅱ	①　地域包括ケアシステムにおける実習施設の役割を理解し説明できる。 ②　実習施設における理学療法士・作業療法士および他専門職の役割を理解する。 ③　学校および実習施設の規則に従って自覚を持った行動がとれる。 ④　実習施設における理学療法・作業療法業務の一部経験する。	3年夜後期	45	1			○	○	1	理学療法学科教員 臨床教育指導者
○			臨床実習Ⅲ	①対象者を尊重し、共感的、傾聴的態度をもって接することができる ②職場における理学療法士・作業療法士の役割と責任について理解する ③理学療法・作業療法における臨床評価の流れを経験し、理解する ④指導者の監視下において、学生により実施されるべき項目の検査・測定およびリスク管理や観察を実践することができる	4年夜前期	360	8			○	○	8	理学療法学科教員 臨床教育指導者
○			臨床実習Ⅳ	臨床実習指導・監督の下で、典型的な障害特性を呈する対象者に対して、 ①臨床教育者の理学療法・作業療法の臨床思考過程を説明し、理学療法・作業療法の計画立案ができる ②臨床教育者に許可された臨床技能を実施できる	4年夜前期	450	10			○	○	10	理学療法学科教員 臨床教育指導者
合計				全51科目									

	総授業時間および単位数	3120 時間	127 単位	実務教員担当科目	91 単位
卒業要件及び履修方法				授業期間等	
卒業要件：すべての授業科目の単位修得を認定された者 履修方法：講義・演習・実習により履修する				１学年の学期区分	2期
				１学期の授業期間	17週